

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

企業就労を通じて自立と社会参加を促進し、社会に貢献できる人材を育成する学校

- 1 生徒の人権を尊重し、個々のニーズをふまえた教育実践を進め、企業就労と社会貢献を実現させる。
- 2 地域、企業、福祉・労働等の関係機関と幅広い連携や交流を充実させ、生徒が主体的に社会に参加できる力を育てる。
- 3 教員の専門性を高め、社会の変化や多様性を踏まえた組織を構築することで、職業教育の充実を図り、生徒の「働き続ける力」を伸ばす。

## 2 中期的目標

## 1 社会的自立に必要な力を養うための特色ある教育活動の充実

## キャッチコピー「身につけよう『働き続ける力』」

＜評価指標：卒業後1年間の定着率100%（再雇用を含む）＞ [R4:87%、R5:91%、R6:100%] →評価結果100% (○)

- (1) 学習指導要領をふまえた教育課程により、確かな学力をはぐくむための「主体的で対話的な深い学び」を軸に授業改善に努める。
- (2) キャリア教育の観点からの自立活動を充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じ、自主性・自立性を育成するための適切な指導、支援を行う。  
\*高等支援学校ならではの適切で有効な自立活動を実施し、専門人材の活用等により効果的かつ効率的な指導、支援を行う。
- (3) 生徒の自己肯定感を高め、自己実現と「働き続ける力」を育成するための「進路学習・進路指導」を推進する。  
\*全生徒に学校生活を大切にしたい規則正しい生活習慣を定着させ、豊富な実習体験により適切で効果的なジョブマッチングを重視した進路指導を行う。  
高い就労率と定着率を維持し、アフターフォローについても重視する。
- (4) 不登校生徒に対し、状況に応じた登校支援を行うとともに、卒業時点での進路先を確保する。
- (5) デジタル機器を効果的に活用するとともにアナログ教材（手仕事）の良さも重視した授業等の一層の改善に努める。
- (6) 生徒会活動の充実、他の高等支援学校や高校、支援学校高等部とのスポーツによる交流機会の拡大と部活動の活性化を図る。

## 2 高等支援学校教員としての資質の向上とこれからの時代の変化に対応できる学校組織力の向上

## キャッチコピー「生徒の模範となる『学び続ける教員』へ」

＜評価指標：学校教育自己診断の教員項目「経験年数の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている」の肯定率70%＞

[R4:54.8%、R5:60%、R6:58.5%] →評価結果75.6% (◎)

- (1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の育成をめざす。
- (2) 生徒への適切な指導実践を行うため、教職員一人ひとりが人権意識をより高め、障がいの理解や支援方法などについての専門性の向上を図る。
- (3) 高等学校に在籍する支援の必要な生徒に対し、支援教育や就労支援のノウハウを生かし支援を行う。
- (4) 教員間の意思疎通を図り、経験年数の少ない教員への適切な支援や健全な同僚性のもと、積極的に学校経営に参画する仕組みを整え、組織力を向上させる。

## 3 地域、企業、福祉・労働等関係機関との連携や交流を充実させるとともに、積極的に情報を発信し、本校の教育活動への理解啓発を推進

## キャッチコピー「連携・交流 広く・深く」

＜評価指標：学校教育自己診断の教員項目「地域との連携に取り組んでいる」「情報の周知に努めている」それぞれ90%以上＞

「地域との連携に取り組んでいる」[R4:83.3%、R5:97.5%、R6:90.2%] →評価結果82.9% (△)

「情報の周知に努めている」[R4:92.9%、R5:97.5%、R6:85.4%] →評価結果90.2% (○)

- (1) 地域社会の中で積極的に活動し、豊かに生きるために交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で連携を図り相互理解を深める。
- (2) 本校の様々な教育活動を積極的に外部発信するなど広報活動の充実を図り、高等支援学校の特色を地域、企業に広める。
- (3) 危機管理体制の充実と地域との連携により防犯・防災教育を行い、「主体的に行動する態度」と「共助」に関する意識の向上をめざす。
- (4) グローバル化や情報化をはじめとした社会の加速度的な変化に対応するため、国際理解教育、国際交流を推進することで、国際的な視野を育むとともに、これからの時代に生きる力を育成する。

## 4 校務の効率化による働き方改革

## キャッチコピー「充実した教育は教職員の健康から」

＜評価指標：ストレスチェック集団分析におけるストレス度90以下を維持＞ [R4:90、R5:83、R6:84] →評価結果86 (○)

- (1) 校務運営の効率化を図る。
- (2) ワークライフバランスを意識した働き方改革を推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見 (経営計画に関連する課題部分を抽出)
<p>全体として、肯定率（「よくあてはまる」「ややあてはまる」）が高く満足度が高かった。</p> <p>生徒 90%台:6項目、80%台:12項目、70%台:2項目 保護者 90%台:10項目、80%台:10項目 教員 90%台:17項目、80%台:8項目、70%台:3項目</p> <p>○学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒「4授業はわかりやすい」と保護者「3子どもは、授業がわかりやすいと言っている」では、肯定率が少し下がった(生徒96.3→89.7、保護者95.0→89.9)ものの、生徒「6先生は、授業の内容や教え方などを工夫している」では、肯定率はキープされている(92.6→93.8)ので、授業は難しい内容があっても、先生は工夫して教えてくれていると感じていると思われる。授業のサブ教員をより積極的に活用し、チームティーチングを生かすことで、生徒の「わからない」を解消し、より「わかる」授業をしていく。</li> <li>・教員「4自立活動の指導は、生徒の障がいや特性に合わせ、生徒が前向きに取り組めるように工夫している」では、例年に比べて肯定率が高くなった(R5:55.0、R6:75.6、R7:80.5)。教育課程検討委員会で指導教諭とより良い自立活動について検討し、学年主任や担任で取組む内容を工夫した結果だと思われる。</li> </ul> <p>○生徒指導・生徒理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒「11担任の先生に、困っていることや悩みがあれば話せる」</li> </ul>	<p>第1回 6/16</p> <p>○令和7年度 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(就ボツと連携した定着支援においては、) 職場訪問をせずに済んでいる卒業生もいて、それが順調だからなのか、引き継いでいないからなのか、見極めが必要。何かあれば、どういう時に本人がSOSを出してくるのかなど、支援のポイントを学校と共有していきたい。会社訪問では、本人の様子を伺うというよりも、職場定着支援に重点を置いた会社訪問をしたい。より広く意見交換する場もあればと思う。</li> </ul> <p>○授業参観アンケートについて(4/26 土曜参観)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種アンケートは、結果を生徒や保護者に返すとともに、取組みにフィードバックすることが望ましい。</li> </ul> <p>○学校いじめ防止基本方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの定義にもあるように、受け手がどう感じているかが大事。相談窓口があってもそこに行く一歩を踏み出せない人もいるので、定期的に話を聞いたりして日頃の様子を確認することは大事である。</li> </ul> <p>第2回 11/27</p> <p>○外国語科の授業でのBASE in OSAKAの活用について(体験あり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府から決まって導入されたものでも、楽しそうって生徒が思えるように指導してほしい。実際の場面で英語を話し、その後もモチベーションを保って学んでほしい。</li> </ul> <p>○令和7年度学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(部活動の加入率に関連して、) 生徒になぜクラブに入らないのかを聞いてみると、「早く帰りたいから」、「バスの時間があるから(バスの本数が限られているから)」。家に早く帰って何を</li> </ul>

## 府立とりかい高等支援学校

と「12 担任の先生以外に、困っていることや悩みがあれば話せる」では、年によって肯定率に変動が見られる（11〔R5：72.7、R6：76.5、R7：77.3〕、12〔R5：77.3、R6：81.5、R7：73.2〕）が、生徒「9先生は、みんなの意見を聞いてくれる」の肯定率が、今年度の生徒の項目の中では一番高い（95.9）ので、自分で解決したいと思う生徒も多いのかもしれない。引き続き、昼休みのランチタイム相談室や体育館、図書室の開放など、HR 教室以外の居場所づくりも継続していくことで、必要な時に生徒の話を聞けるように教員全体で相談体制を充実させていく。

## ○進路指導

・教員「12 進路指導において、福祉や労働機関等の関係諸機関と緊密な連携ができています」では、例年に比べて否定率が高くなっている（R5：2.5、R6：4.9、R7：9.8）が、関係機関との連携はかなり専門的であり、全教員が適切に担うには難しい面もある。現状は、進路指導部を中心に、生徒個々に応じた進路先は確保できているので、引き続き、教員間で情報共有や意見交換をしながら、教員全体の進路指導の専門性を高め、生徒や保護者に還元していく。

## ○情報提供

・保護者「12 学習の内容や学校生活の様子を懇談や連絡帳等によって、知ることができる」では、1 件の無回答を除くと、100%の肯定率である。日頃の情報共有手段として有効に働いているので、無回答が他と比べて多めの項目（保護者「11 性に関する指導」6、「13 学校以外の相談機関の情報」6、「17 地域や社会と交流する機会」6など、）については、意識的に連絡帳などで伝えていく。

## ○学校組織・教育活動の改善

・教員「25 業務上、相談できる相手がいる」と教員「26 初任者等、経験の少ない教員を学校全体で育成する体制が取れている」では、管理職から職員全体にお互いに支え合いましょうと呼びかけたり、経験の少ない業務を担う教員には業務内容を詳しく事前に伝えたりしたことが肯定率アップに繋がった（25〔R5：90.0、R6：82.9、R7：92.7〕、26〔R5：60.0、R6：58.5、R7：75.6〕）。

・教員「27 研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝える機会が多く設けられている」では、例年に比べて肯定率が上がった（R5：60.0、R6：61.0、R7：73.2）。職員会議後の時間を使ったり、資料の回覧をしたりして、意識して共有するようになった。

のかを聞くと、「スマホ見る」、「ゲームする」という返答で、そういう時代なのかなと感じる。

→ いっそ「ゲーム部」を作ってみてはどうか。

- ・一般校（高等学校）の生徒の支援をどうするかということは課題である。学校からというよりも保護者からの相談が就ポツに來たりする。先生よりも本人や保護者が迷っていたりするのはないか。今は一般校にも障がいのある生徒も多く在籍している。学校の先生の集まりに就ポツも参加する予定である。ニーズを拾うのは大事である。

## 第3回 1/30

## ○生徒保健委員会の活動・発表（動画視聴）について

- ・整理整頓や身だしなみについて、正しいやり方を理解してそれを習慣化することの大切さを感じた。障がい者雇用をしている立場からは、会社でできることもあれば、歯みがき、掃除、家事など家庭でできることもあるので、ぜひ学校でのこの取り組みを継続させてほしい。

## ○令和7年度3年生（11期生）進路状況について

- ・進路状況の資料には、しっかりと生徒に寄り添って先生方が対応された結果が現れていると思う。

## ○令和7年度 学校教育自己診断 結果と分析について

- ・避難訓練の想定は、生徒には先に説明をした上でスタートしたほうがよい。いろんな想定があって訓練するのはすごくいいと思うが、情報を前もって生徒にも共有しておけば、「あ、そうか、じゃあ先生が怪我した場合はこうやって動くんだな」とかのイメージがもう少し持ちやすいのかなと思う。放送が止まるとこういうこともありえるんだよ、みたいなのを先情報として言ってあげたらもうちょっと肯定率が上がるのかなと思う。

## ○令和7年度 学校経営計画及び学校評価について

- ・例えばマラソン大会で、去年の記録タイムは 10 分で、今年は 10 分3秒だったという場合、私たちは、同じマラソン大会に参加してるんだけど、「ちょっと今年あかんかったよね」という評価もする。学校の先生って、「去年と同じだった」だと納得しないことがある。「同じことをやっても」という風に考えてしまうと、同じことをやっても、たまたま去年の盛り上がり良かったら、「今年はイマイチやったな」みたいな判断があるのかなと感じる。
- ・いつもやってることを評価していいものなんだろうと思う先生もいるのではないかな。すごく評価に値することをしても、「それって毎回やってること」、「それって評価していいことなん？」みたいなことを思う先生もいると思う。

## ★R7年度学校経営計画及び学校評価（案）について、承認された。

## ○令和8年度 学校経営計画及び学校評価について

- ・新しい形での卒業生による進路学習について、昇格した人や資格を取った人に来てもらって話を聞くといいと思った。会社側の雇用者の能力開発の向上という視点と、支援者側の雇用者のスキルアップを応援していこうという視点と、同じ方向を見ているところがいい。あと、先生や支援者から話すのではなくて、実際に昇格した人、実際に頑張った人から話してもらおうというのが、話す側の本人にとっても、とてもエンパワメントされるだろうし、よりリアルな話になっていいと思う。

## ★R8年度学校経営計画及び学校評価（案）について、承認された。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞ (番号は上記中期的目標に対応)	具体的な取組計画・内容 (「 」内の太字下線部分はキャッチコピー)	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 特色ある教育活動の充実	<p>(2) ア アレルギー対策の徹底 ＜保健部＞</p> <p>イ 規則正しい生活習慣と生活リズムへの意識向上 ＜生徒指導部＞</p> <p>(3) 生徒向けの進路指導の取り組み充実 ＜進路指導部＞</p> <p>(4) 不登校生徒への支援の充実 ＜各学年＞</p> <p>(5) デジタルとアナログのバランスの取れた授業の推進 ＜教務部＞</p> <p>(6) 生徒会(委員会)活動の充実と部活動の活性化 ＜生徒指導部＞</p>	<p>(2) ア <u>「確認→迅速対応！」</u> ・教職員向け研修の実施(4月) ・食を伴う学習チェックリストの作成から提出までの手続きの徹底(通年) ・ヒヤリハット事象の共有(随時)</p> <p>イ <u>「基本の基」</u> 登校指導、下校指導を徹底する。規則正しい生活習慣への意識を向上させ、欠席や遅刻数の減少を図る。</p> <p>(3) <u>「みんなで学んで、自分で決める」</u> ・実習後の自己評価表と実習先の評価表の比較、実習日誌等を活用した面談の実施による振り返りの実施 ・1年生の職場見学で、学校近隣企業への少人数での訪問 ・企業による進路学習の充実及び卒業生による進路学習の在り方見直し検討</p> <p>(4) <u>「納得の移行支援を行います」</u> SSW や SC を活用し、地域の児童福祉担当課と連携することで、生徒の状況に応じた登校支援を行うとともに、卒業時点での進路先を確保する。</p> <p>(5) <u>「デジタルもアナログも大切に」</u> デジタル機器を有効に活用するとともに、手仕事等のアナログ活動も充実させる。</p> <p>(6) <u>「青&amp;春」</u> ・生徒会(委員会)活動の充実</p> <p>・大会等への積極的参加</p>	<p>(2) ア・アレルギー事故0件 [0件]</p> <p>イ・遅刻年5回以内の生徒を7割以上[新規]</p> <p>(3)</p> <p>・職場実習ごとに、校内での振り返りを欠かさず実施[新規] ・新規の職場見学を2社以上実施[新規] ・新しい形での進路学習について試行1回以上[新規]</p> <p>(4) ・卒業時点での進路先の確保100%[新規]</p> <p>(5) ・全授業で実施(校長の授業見学にて確認する)</p> <p>(6) ・定期的な各生徒委員会の実施と活動 年8回以上[8回]</p> <p>・各競技会の大会、芸術活動への積極的参加 年14回以上[14回] ・クラブ加入率80%以上を維持[81.7%]</p>	<p>(2) ア・4月に教員向け研修を実施した。 ・食物アレルギーの対応について、各担当者がマニュアルに沿って手続きを徹底した。 アレルギー事故0件(○)</p> <p>イ・登校指導、下校指導を徹底した。 遅刻年5回以内の生徒数は、 1年:28/32人 2年:29/33人 3年:23/30人 計:80/95人 → 84.2%(◎)</p> <p>(3) ・すべての実習の振り返りを実施した。振り返りの共通様式を作成し活用について施行した。(○)</p> <p>・摂津市商工会と連携し、1年生の職場見学で、新たに学校近隣の企業を3社見学した。5/21(○) ・就労支援アドバイザー事業を活用した進路学習を1回実施した。11/26(○)</p> <p>(4) ・保護者、支援機関と連携をとりながら進路先の確保に努めた。100%(○)</p> <p>(5) ・全授業で学習内容に応じたデジタル・アナログの活用ができていた。(○) (授業力向上に向けて、全教員の授業をビデオ録画し共有した。)</p> <p>(6) ・定期的に各生徒委員会の実施と、生徒集会での発表を行った。年8回実施した。(○) 生徒会においては、他の高等支援学校との交流会に初めて参加し、生徒同士の交流を深めることができた。2回参加した。次年度も継続予定。また校内活動では、お昼の放送に摂津支援学校の生徒にも参加してもらい新たな活動も行った。 ・各競技会や芸術活動に積極的に参加した。(17回)(○)</p> <p>・クラブ加入率 (全体81.5% 1年75.7% 2年93.3% 3年75.8%)(○)年度当初、昨年よりも加入率が減少(全体77.0%)したので、校内放送やポスター作製を行い、新入部員の募集を行った。</p>
2 高等支援学校教員としての資質の向上と学校組織力の向上	<p>(1) 教員の就労支援にかかわる専門性の向上 ＜進路指導部＞</p> <p>(2) 指導力・支援力の向上 ＜地域支援部・指導教諭＞</p> <p>(3) 高等学校への地域支援の充実 ＜LS、進路指導主事＞</p> <p>(4) 教員の育成と学校組織力の向上 ＜地域支援部・首席＞</p>	<p>(1) <u>「みんなで取り組む進路指導」</u> ・企業の定着支援担当、障がい者就業・生活支援センター、福祉事業所職員、本校進路指導部員によるディスカッション形式の研修実施 ・長期休業を利用した教職員向け企業見学会実施</p> <p>(2) <u>「学び合い、教え合い、高めあう一人ひとりを導く力」</u> ・教職員人権研修を年間2回実施 ・専門性を高める研修を年間2回実施 ・自立活動研修を年間2回開催実施</p> <p>(3) <u>「資源としての高等支援にぜひ相談を」</u> サポート校を通じた地域支援を活性化させるための手立てを模索する</p> <p>(4) ア <u>「一番深い学びは、他者に説明できるようになること」</u> オープンスクール・進学フェア等に、新転任者が案内者・学校紹介担当として参加する。</p> <p>イ <u>「力を合わせて学校運営を」</u> 学校経営計画の重点目標にキャッチコピーを付す。担当部署長と目標設定・進捗状況・達成状況の確認面談を行い、主体的に学校運営に参画する意識を育てる。</p>	<p>(1) ・研修を1回以上実施[新規]</p> <p>・新転任者の8割以上参加[新規]</p> <p>(2) ・教員の研修満足度、理解度80%以上維持[80%] ・研修の参加率80%以上維持[80%]</p> <p>(3) ・相談件数の増加[1件]</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている」肯定率70%以上[58.5%] イ・キャッチコピーの明示</p> <p>・学校教育自己診断「教職員は、学校の運営や改善に役立つよう積極的に意見や考えを発信している」肯定率75%以上[70.7%]</p>	<p>(1) ・茨木市障がい者地域自立支援協議会就労支援部会メンバーを招いての教員研修を実施した。10/2(○) ・企業見学会に新転任者全員が参加した。7/31(◎)</p> <p>(2) ・人権研修「同和問題」8/20 「事例から考える体罰・不適切な指導を予防する支援と指導」12/24 専門研修「聴覚障がいの基礎と難聴体験」7/18 「面談技法」1/8 自立活動研修「アセスメントの基礎知識」8/19 「事例検討の進め方とその実践」9/26 教員の研修満足度83.2%、理解度83.2%(○) 研修参加率82.6%(○)</p> <p>・相談を1件実施した。(○) 第2地区校長会で呼びかけるなど、さらに活性化していく。</p> <p>(4) ア・オープンスクール8/21、22、23、進学フェア7/27、個別相談会11/1で新転任者全員が見学者案内や学校の説明を行った。 学校教育自己診断肯定率75.6%(◎)</p> <p>イ・キャッチコピーを明示した。学校運営協議会でも「テーマをみんなで共有してすすめていくのは素晴らしい」「見入ってしまうほど分かりやすい」といったご意見をいただくなど、高い評価を得た。(○) ・担当部署長・副長と、目標設定・進捗状況・達成状況の確認面談を行った。 学校教育自己診断肯定率78.0%(◎)</p>

## 府立とりかい高等支援学校

<p>3 関係機関との連携や交流と理解啓発の推進</p>	<p>(1) 生徒の社会的自立に向けた、支援機関・地域との関係強化 ＜進路指導部・喫茶販売＞</p> <p>(2) 広報活動の充実 ＜地域支援部＞</p> <p>(3) 防犯・防災教育の充実 ＜生徒指導部＞</p> <p>(4) 豊かな国際感覚や多様性を受け入れる態度の醸成 ＜首席・外国語科＞</p>	<p>(1) ア <b>「地域の力を貸してください」</b> ・障がい者就業・生活支援センターや地域の相談支援事業所等を対象とした、学校見学会や懇談会の実施 ・就労支援に関わる公開研修の実施</p> <p>イ <b>「いらっしゃいませ、とまネコ喫茶店へ」</b> ・喫茶販売の授業で、地域の人に喫茶店を開放する。</p> <p>(2) <b>「来て、見て、知って とりかい のこと」</b> 地域の中学生（中学部生）に学校祭を公開する。</p> <p>(3) <b>「自分を守れば、人も守れる」</b> ・教員、生徒への防犯・防災学習の実施</p> <p>・避難場所や備蓄品等の定期的な確認</p> <p>(4) <b>「英語で話そう」</b> これまでの T-NET や OFIX の活用に合わせて、府の「姉妹校交流支援事業」を活用し、英語学習ツールにて「話す力」を育成する。</p>	<p>(1) ア・学校見学会・懇談会・研修をそれぞれ1回以上実施 [新規]</p> <p>イ・地域の人への喫茶店の開放試行 [新規]</p> <p>(2) ・前年度より来場者人数を15人増やす。 [30人]</p> <p>(3) ・4回/年 [4回/年]</p> <p>・地域、市役所、摂津支援学校との会議各1回実施 [新規]</p> <p>(4) ・英語学習ツールを使った授業の実施3回以上 [新規]</p>	<p>(1) ア・参加機関に複数回来校いただくことを避けるため、見学・懇談・研修会を合わせた形にまとめ1回実施した。27機関39人の参加があった。当初の参加予想(10機関20人程度)を上回る参加があり、地域との連携について、潜在的なニーズを掘り起こすことができた。1/16 (◎)</p> <p>イ・地域への開放はできなかったが、代替として、保護者や「とりかい見学セミナー」に参加いただいた企業の方々に喫茶店を開放した。また「関西教育ICT展」で授業の実践発表を行った。(○)</p> <p>(2) ・学校祭に中学生とその保護者25組50人が来場し、昨年より20名増加した。11/15 (○)</p> <p>(3) ・防犯学習を1回6/3、防災学習を3回5/9、9/2、12/23、の計4回行った。避難訓練においては、通行不能場所や要救助者の設定など、より実地的な訓練となるよう、フィードバックとアップデートを繰り返しながら、災害が起きた時に備えられるようにした。(○)</p> <p>・市役所と避難所締結に向けた懇談会を1回、定例の施設見学を1回行い、水災害と地震を含んだ避難所開設の締結を行った。市役所と地域も学校の避難所開設に向けて、意見交換会を行った。摂津支援学校と合同防災委員会を前期に1回開催した。夏には合同の防災研修で、避難袋の実演研修を行った。(○)</p> <p>(4) ・10～11月頃にかけて、1年生3クラスでそれぞれ2回ずつ計6回、英語学習ツールを活用した授業を行った。意欲的に学習する生徒の様子が見られた。また、学校運営協議会で委員さんに学習ツールを体験いただき好評を得た。(◎)</p>
<p>4 校務の効率化による働き方改革</p>	<p>(1) 校務支援システムの積極的な活用 ＜教務部＞</p> <p>(2) 放課後の会議等のスリム化 ＜教務部＞</p>	<p>(1) <b>「時間を創ろう！校務支援を味方に」</b> 校務を効率化できるような学校独自のマニュアルを作成し、全校で共有する。</p> <p>(2) <b>「スリムな会議で生まれる笑顔」</b> 放課後における会議等の設定を検討する。会議等の無い日を月1回以上設定し、放課後の時間を有効に活用できるようにする。</p>	<p>(1) ・マニュアルを作成できたかどうか、また積極的な活用により校務の効率化ができたかどうかを確認。教員へのアンケート「校務支援システムの活用によって、以前より校務が効率化された」の肯定率75%以上。 [アンケート実績なし]</p> <p>(2) ・会議等の無い日を月1回以上設定できていたかどうかを確認。教職員へのアンケート「以前より放課後の会議等が減り、放課後の時間を有効に活用することができた」の肯定率75%以上。 [アンケート実績なし]</p>	<p>(1) ・システムの本格実施を令和8年度に控え、出席情報登録や指導要録印刷の運用の試行実施を行った。その一環として、校内用マニュアルを作成し、研修を行った。12/24 (○) 教員へのアンケート肯定率 66%。(△) 今後、マニュアルの活用を進めていく。</p> <p>(2) ・会議の無い日を毎月1回以上設定できている。会議の無い日は毎月1回以上設定できた。(年間35回)会議もペーパーレス化も進み、会議のコンパクト化につながった。(◎) 教員へのアンケート肯定率 60%。(△) チャットツールを活用し、更なるスリム化をめざしていく。</p>